

第1回稲沢市観光基本計画推進委員会 会議録

【日 時】平成30年7月4日（水）午前10時～午後0時9分

【場 所】稲沢市役所本庁舎2階 政策審議室

【出席者】稲沢市観光基本計画推進委員会委員（敬称略）

大澤 健	和歌山大学経済学部教授
栗林芳彦	名古屋文理大学情報メディア学部情報メディア学科教授 ・地域連携センター長
西村哲治	公益社団法人日本観光振興協会中部支部事務局長
鈴木 隆	一般社団法人愛知県観光協会専務理事兼事務局長
古川正美	稲沢市観光協会事務局長
服部正見	稲沢商工会議所理事兼事務局長
山田 洋	祖父江町商工会事務局長
野村 修	平和町商工会事務局長
壁谷知宏	名古屋鉄道株式会社グループ事業推進部インバウンド担当課長
河村宏一	愛知西農業協同組合農産部部長
松田雅之	尾張大國霊神社権禰宜
林 和伸	善光寺東海別院副住職
塩冶康人	国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所河川公園課長
浪上永子	公募市民

【事務局】 加藤錠司郎 稲沢市長
岩間福幸 稲沢市経済環境部長
久留宮庸和 稲沢市経済環境部商工観光課長
横井利幸 稲沢市経済環境部商工観光課主幹
大屋 将 稲沢市経済環境部商工観光課主査

【会議次第】

- 1 委嘱状交付
- 2 市長あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 正副委員長の選出
- 5 協議事項
 - (1) 会議の運営方法について
 - (2) 今後のスケジュールについて
 - (3) その他
- 6 その他

【会議の概要】

1 委嘱状交付

[事務局]

皆様おはようございます。定刻となりましたので、ただ今から稲沢市観光基本計画推進委員会を始めさせていただきます。本日はお忙しい中、またお足元の悪い中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。私は委員長が選出されるまでの間、この会議の進行を務めます稲沢市経済環境部商工観光課長の久留宮庸和です。よろしくお願ひいたします。

はじめに、委嘱状を交付させていただきます。委嘱状の交付は、市長からお一人ずつお渡しします。市長が前にまいりましたら、恐れ入りますがご起立いただきますようお願いいたします。

<市長から各委員へ委嘱状を交付>

[事務局]

ありがとうございました。次に加藤市長よりご挨拶申し上げます。

2 市長あいさつ

[市長]

皆様おはようございます。本日は大変お忙しい中、また台風が接近して天候が悪い中、稲沢市観光基本計画推進委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、この度は本推進委員会の委員をお願いしたところ、快くお引き受けいただき心よりお礼を申し上げます。

稲沢市では、今年3月に「稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）」を策定しました。この計画が絵に描いた餅で終わらないように、本日お集まりの皆様を中心に様々な検討を加えながら、しっかりと前に進んでいるか10年間見ていただきたいと思ひます。

今年には市制60周年の年になりますが、これを記念して稲沢市では様々なイベントが企画されています。10月から12月にかけては、愛知県とJRグループが共同で行う愛知デスティネーションキャンペーンが開催されますが、この期間中である11月29日には、観光関係者の方々にお集まりいただくイベントとして「第10回愛知県観光交流サミット in いなざわ」の開催も計画しているところですが、その先には2019年のラグビーワールドカップや2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催、そして2026年には夏季アジア競技大会が愛知県で開催され、さらに2027年にはリニア中央新幹線が開業するなど、今後観光の面で非常に大きな基盤の変化が起こることが予想されています。各自治体もいろいろな取組で観光客の誘致や交流人口の増加に取り組んでいくと思ひますが、稲沢市は稲沢市のやり方で、あまり大きな設備投資をすることなく、観光に関わっていただける方々を増やししながら、稲沢市全体のまちづくりに繋げていければと考えています。その一方で、「観光でお客様に来ていただき、市内に少しでも経済的な効果が上がるように」と期待されている方もみえます。これもまた当然の意見だと思ひます。この部分が欠けていては、何のためにこの計画を実行するのか分からないと私自身も考えています。様々な機会を捉えて稲沢市の観光資源をPRし、また観光で来られたお客様に少しでも多くのお金を落とさせていただくような場面を作っていきたいと考えています。皆様には稲沢市の観光施策が少しでも前進するよう、活発で熱い議論をいただきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

3 自己紹介

[事務局]

ありがとうございました。本日は委員を委嘱させていただいてから初めて開催する会議となりますので、恐れ入りますが、皆様に自己紹介をお願いしたいと存じます。大変恐縮ですが、お手元の「稲沢市観光基本計画推進委員会委員名簿」に従い、大澤 健様から順に自己紹介をお願いいたします。

<名簿掲載順に自己紹介>

[事務局]

ありがとうございました。なお、愛知県振興部観光局観光振興課長である伊藤 哲浩委員につきましては公務の都合のため、また、市民公募により選出されました後藤 洋哉委員につきましてはご親族に不幸があったとのことで、それぞれ本日の会議を欠席される旨ご連絡をいただいておりますことをご報告いたします。

続いて事務局側の自己紹介をさせていただきます。

<事務局の自己紹介>

4 正副委員長の選出

[事務局]

続きまして、委員長、副委員長の選任についてお願いをさせていただきます。選任については、稲沢市観光基本計画推進委員会設置要綱第6条第1項の規定により、委員の互選となっております。どなたか推薦をお願いいたします。

[委員①]

僭越ではありますが、ご推薦申し上げたいと思います。委員長には、昨年度の「稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）」の策定に際し、策定委員会の委員長として多大なるご尽力を賜りました和歌山大学の大澤教授をお願いしたいと考えます。また、副委員長には稲沢市のみならず、県レベルまた県の枠を越えた広域的見地からご指導を賜りたいとの思いから、愛知県観光協会の鈴木専務理事にお願いできればと考えます。

[事務局]

ありがとうございました。ただ今、和歌山大学経済学部教授の大澤 健委員を委員長に、愛知県観光協会専務理事兼事務局長の鈴木 隆委員を副委員長にとの発言がございました。

お諮りします。委員長については大澤 健委員に、副委員長については鈴木 隆委員にお願いしてもよろしいでしょうか。

<「異議無し」の声>

[事務局]

ご異議も無いようですので、委員長については大澤 健委員が、副委員長については鈴木 隆委員が選任されました。恐れ入りますが、お二人には正面の委員長席、副委員長席へご移動いただきますようお願いいたします。

<委員長、副委員長は各席へ移動>

[事務局]

恐れ入りますが、大澤様、鈴木様からそれぞれ就任のご挨拶をお願いできればと思います。

[委員長]

改めまして、委員長に就任いたしました大澤と申します。本日までご出席いただいている多くの皆様のご協力をいただき、昨年度「稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）」を策定することができました。本日お手元に配付されているものが計画の概要版になります。この表紙の一番目立つ箇所に「観光を“手段”として活用することによって、まちの活性化につなげたい」と書かれているとおり、この計画によって「観光まちづくりの視点に立った活動に今後取り組んでいく」という稲沢市の観光にとって最も基本となる部分が定められました。皆様の多大なるご協力と市役所の職員の方々のもの凄い活躍があって、この計画書は本当に素晴らしい出来になっています。これまで様々な地域の観光計画を見てきましたが、その中でも稲沢市ぐらい綺麗にまとまっているものは無いのではないかと私自身感じています。それくらいこの計画書が完成した瞬間は感動しました。このような素晴らしい計画を作った訳ですので、今後はこれをしっかりと推進していくことが我々に課せられた次の課題となります。計画の完成を受けて昨年度末にキックオフシンポジウムが開催されましたが、その時の会場の盛り上がりと言えば、ある種異様な感じがするくらいでした。市民の方々がこの計画に共鳴し、「これから稲沢市は観光まちづくりに取り組んでいくんだ」という意志を市民から強く感じることができました。この点からも、この計画をしっかりと実施していかなければいけないと思った次第です。さらに、先ほど市長さんから紹介があったように、これから稲沢市ではビックイベントが目白押しです。直近では、愛知県観光交流サミットがここ稲沢市で開催されることになっています。何となく聞き流してしまう話かもしれませんが、私からすると「稲沢市で開催するのか！」と大変驚きを感じる会議です。過去の開催地を見ると、県内でも観光のイメージが強い蒲郡市や犬山市などが持ち回りで開催してきた会議ですので、今回の稲沢市での開催は「稲沢市が観光に本気になっていること」を県内、さらに県外の方々にアピールする場として最初の舞台、デビュー戦になるのではないかと思います。大いに期待しているところです。市民の盛り上がりにしても、計画の出来にしても、これから開催される様々なイベントに関しても、どれもすごくワクワクする、何かが起こりそうな予感がある状態になっていますので、私も委員長として稲沢市の勢いに加わり、またそれをより進めていけるように務めていきたいと思っています。皆様の積極的なご協力をお願いいたします。

[副委員長]

愛知県観光協会の鈴木です。愛知県は産業圏のイメージが非常に強く、年間約 40 兆円の工業出荷額があります。その一方で、農業算出額も約 3,500 億円で全国 6 位から 8 位くらいの規模を

誇っています。観光が盛んになると、地域食材の供給として一次産業にも大きな波及効果が上がります。愛知県の自動車産業は裾野が広く、迂回生産過程が長くて非常に効果が大きいと言われますが、観光はそれ以上に一次産業も含めて地域に幅広く所得が浸透していきますし、労働集約的な産業ですので、サービス業の雇用も多く生み出します。観光振興は「地域の活性化や維持」、そして、地域に対する誇りや愛着が生まれ、地域づくりの中核となる人々の心を豊かにし、自信を持たせるという点で「シビックプライドの醸成」にも効果があることを大澤委員長から昨年度教えていただきました。観光に取り組むことは非常に素晴らしいことだと改めて実感した次第です。その大澤委員長を補佐しながら進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

[事務局]

ありがとうございました。これより議事に移りますが、市長につきましては他の用務がありますので、ここで退席させていただきます。

<市長退席>

[事務局]

それでは、改めまして議事を進めてまいりたいと存じます。

会議の進行につきましては、要綱第7条第3項の規定により委員長が務めることになっておりますので、以降の会議の取り回しにつきましては大澤委員長にお願いいたします。

5 協議事項

(1) 会議の運営方法について

[委員長]

これより議事に入りたいと思います。

最初に協議事項(1)会議の運営方法について、事務局より説明をお願いします。

= [事務局] =

【資料1「稲沢市観光基本計画推進委員会設置要綱」及び資料2「稲沢市観光基本計画推進委員会の運営に関する確認事項」に基づき説明】

[委員長]

事務局からの説明が終了しました。ご意見、ご質問等がある委員は挙手をし、指名後にご発言いただきますようお願いいたします。意見が出にくい内容ではありますが、いかがでしょうか。

[委員①]

事務局の提案どおりで良いかと思えます。

[委員長]

他にご意見、ご質問等が無いようですので、委員の皆様にお諮りいたします。

次回以降の会議については、事務局から提案があった運営方法で進めていくことでよろしいでしょうか。

<「異議無し」の声>

[委員長]

ご異議も無いようですので、次回以降の会議は、先ほど事務局から提案があった運営方法に基づき進めさせていただきます。

(2) 今後のスケジュールについて

[委員長]

次の協議事項に移ります。協議事項(2)今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

= [事務局] =

【資料3「稲沢市観光まちづくりビジョン(第2次稲沢市観光基本計画)進行管理スケジュール」及び参考資料「稲沢市観光まちづくりビジョン(第2次稲沢市観光基本計画)【概要版】」に基づき説明】

[委員長]

事務局からの説明が終わりました。ご意見、ご質問等がある委員は挙手の上、指名されてからご発言願います。

一つ確認しておきたいのですが、観光入込客数調査や市内観光消費額調査、またアクションプランの進捗状況に関する各種団体からのヒアリングの結果については、どのような公表方法を考えているのでしょうか。

[事務局]

各種調査結果については、本推進委員会の中で報告させていただくとともに、会議資料として市ホームページ等に掲載し公表する予定です。

[委員長]

取組を進めていく上で大事なポイントの一つになるのが、市民向けの広報です。市民の中には「稲沢市で観光と言っても国府宮と善光寺だけではないか」など、稲沢市が観光に取り組むことについてあまりピンと来ていない人も多いのではないかと思います。そのため、様々な取組の成果を報告しながら進めていく必要があると思いますし、その手段として市民に効果的にアナウンスできる何らかの手法を考えなければいけないと思います。市の広報誌を使う方法もありますし、飛び道具的にプレスリリースをしてテレビや新聞に取り上げてもらう方法もあると思います。あの手この手を使いながら、市民への浸透を図っていただくようお願いします。

ちなみにこの会議の進め方ですが、皆さんからあれこれ意見を出してもらいながら進める形で良いのでしょうか。

[事務局]

皆様から忌憚りの無いご意見をたくさんいただき、より良い取組に繋げていければと思います。いただいたご意見の内容によって、「すぐに出来ること」「検討を要すること」など様々なケースが考えられますが、事務局としては出来ることから取り組んでいければと考えます。この会議ではなるべく「出来ない」という発言はせず、いただいたご意見に対して前向きに捉えていきたいと思っております。

[委員長]

分かりました。皆様の積極的なご意見をよろしく申し上げます。

[委員②]

先ほど事務局から紹介があったとおり、5月7日にサリオパーク祖父江イベント実行委員会が発足しました。この実行委員会は、現在稲沢夏まつりやサンドフェスタといったイベントで利用されているサリオパーク祖父江について、「もっと日常的に利用してもらう方法は無いだろうか」との思いから、稲沢市にも協力していただき、年間を通じた利用促進を検討・実施するための組織として立ち上がったものです。この実行委員会がどのような進み方をしているのかを紹介していくことが私の一つの仕事であると思っておりますが、実は最近、ビーチバレーやビーチサッカーの場所として十分に活用されていない砂のエリア、そこをビーチとして使いたいという民間の人たちが出てきています。その提案を受けて、我々としては開園時間も含め、思い切ってその場所自体を貸し出すような形で利用してもらうのはどうかと考えています。彼らはサリオパーク祖父江でケータリングとか、宿泊キャンプとか、自分たちでハンモックを設置するとか、様々なアイデアを提案してくれており、我々もぜひやりたいと思っております。そのためには、祖父江町商工会に協力をお願いしたい部分もありますので、図々しい話かもしれませんが、我々から提案する形で進めることができないかと思っております。サリオパーク祖父江の年間入園者数を増やすことで、この計画の推進に少しでも役立てるような状況を作りたいと考えていますので、よろしく申し上げます。

[委員長]

ありがとうございます。既に市も交えたイベント実行委員会が立ち上がり、様々な利用促進策が進められているとお聞きしましたので、今後も積極的に取り組んでいただきたいと思います。

この推進委員会は毎年1回、年度末に開催されるということで、計画進行のお目付け役、ご意見番的な役割を担う訳ですが、委員の皆様の実態を見ると、現場のプレイヤーとして活躍されている方が多く参加されています。そのため、先ほど委員から発言があったように、「これから我々は〇〇をやっていきます」とか、「我々は△△のような活動に取り組んでいます」といった情報をこの会議の中で積極的に発信していただき、「委員同士でいろいろな結び付きを持っていただきたい」というのが私の希望するところです。「後日商工会に足を運びますので、よろしく申し上げます」といった感じで、この場を活用してどんどんいろいろな結び付きを作っていただきたいと思います。その点を踏まえて、お知らせ、質問、意見等があれば、気軽にご発言ください。

[委員③]

今の稲沢市は約4分の1が高齢者ですが、元気な方がとても多いです。地域で祭りが開催されると、地元の高齢者の方々がとても盛り上がっています。それを見ていると、こうした方々に祭りやイベントの際にボランティアとして参加してもらい、「あなた達がいなければ地域が盛り上がりません」という雰囲気を持って行ければ、もっと稲沢市は活性化するのではないかと思います。稲沢市観光協会で観光ボランティアを募集していますが、わざわざ応募してまでボランティアをやる人はそれ程多くないと思います。しかし、地域で何かを行う場合は、年配の方々もすごく元気に動きますので、そうした人達を行政が上手に導き、ボランティアへの参加を促すような仕掛けが行えると、もっと稲沢市は元気になると思います。働き盛りの人達は仕事をして、子育てもしなければいけないので、なかなか参加することができませんが、65才以上の元気な人達を観光事業やイベントに引っ張る、上手に巻き込むことが出来れば、稲沢市はもっと活性化すると思います。先ほど「計画の内容をどのように広報するのか」という話があり、事務局から「ホームページや市の広報誌に掲載する」との回答がありましたが、ほとんどの市民は自分に関係の無い記事は見ません。「市でそんなイベントをやっていたのか」「そんな取組が行われていたなんて知らなかった」という声をよく聞きますので、地元の人達が多く集まる祭り会場等を利用してPRしたほうが余程効果的だと思います。稲沢市は田舎なので、口コミが一番の方法だと思います。「見ません」「読みません」「関係ありません」という高齢者に対して、「あなた達の力が必要だ」と訴えることができれば、今までの倍以上の活性化に繋がると私は思います。地元の人達の上手な取り上げ方を考えていただくと、稲沢市も変わるのではないかと思います。私は一人の市民であって何の肩書もありません。自ら祭りやイベントを企画したり、開催したりするのではなく、あくまでお手伝いの立場です。観光とは直接関係ない発言かもしれませんが、必要なことだと思います。申し上げました。

[委員長]

アクションプランを実際に進めていく上で、市民の巻き込み方は当然考えていく必要があります。事務局で検討していただくようお願いします。

[委員③]

推進委員会の役割は、「計画に書かれていることがしっかり出来ているか」を確認するだけなのではないでしょうか。1年に1回集まって取組の結果だけを説明されても、単なる承認に止まってしまうと思います。それ以外にも幅広く観光に対する意見を言っても良いのでしょうか。

[事務局]

資料1の要綱第3条（所掌事務）に記載のとおり、委員の皆様には「計画の進捗状況の確認と成果の検証に関する事」「計画の見直しに関する事」に加え、先ほどから忌憚りの無いご意見をいただいているように、「観光まちづくりの推進に向けた助言」に関してもお願いできればと考えています。年に1回の会議ではありますが、毎年の進捗状況の確認はもとより、幅広いご意見をお聞かせいただければと思います。

[委員長]

いただくべくしていただいた意見だと思います。「年に1回進捗状況を確認し、来年度に向けた意見を述べるのが委員の仕事なのか」と言われれば、そのとおりなのですが、先ほど申し上げたとおり、それはあくまで最低限の仕事だと思います。むしろ今回は、皆さんが現場で日常的かつ積極的に活動されることを期待した上での委員委嘱だと思いますので、商工観光課に出向いていろいろなことを言っていただいても構いませんし、「〇〇をやりたいけど、どうしたらいいのか」と相談しに行かれても構わないと思います。皆さんが積極的に動かれることを市が一番期待していると思います。先ほど「肩書のない一市民」という発言がありましたが、既に皆さんには「観光基本計画推進委員会委員」という立派な肩書がありますので、稲沢市の観光を推進する立場でどんどん周りにも呼び掛けて活動していただきたいと思います。こうした会議形式で集まるのは年に1回だけですが、日常的な活動や市との意見交換は活発にやっていただきたいと思います。

[委員②]

今後10年というスパンで私どもが考えていることの一つに、「サイクリングロードの整備」があります。稲沢市を含む木曾川沿川自治体と連携して現在進めており、これが全部整備されると、木曾三川が上流から下流までサイクリングロードで結ばれる形になります。三重県桑名市の木曾川河口から岐阜県の一部を通り、犬山市が最上流のイメージで1周回ると、100キロ以上のコースになりますので、「木曾三川ロードレース」のような競技イベントも視野に入れて動いていけるのではないかと考えています。ツール・ド・フランスを始め、ヨーロッパではロードレースが非常に盛んですが、ほとんどのレースは出発してからゴールまで同じ地点を通ることがありません。そうしたコース設定が一般的なのですが、日本のレースは周回コースがほとんどです。多い場合だと10何周も回るケースもあります。もし木曾三川でロードレースが出来たら、少なくとも本州では初めての本格的なコース形式になると思っていますので、ぜひ取り組んでいきたいと考えています。その中心となる場所がサリオパーク祖父江になりますので、サイクリングロードの整備は非常に重要な事業になると思っています。サリオパーク祖父江にはビーチがありますし、サイクリングロードはランニングコースとしても活用することができますので、ロードレースと組み合わせたトライアスロンといった展開にも繋がっていく可能性を秘めています。国としては、このようなアイデアも持っています。

[委員長]

この地域で活動されている様々な団体の方々と繋がって盛り上げていただきたいと思います。

このような情報交換の場が常設的にあると良いと思うのですが、実は先ほど紹介があった「いなざわ観光まちづくりラボ」がそうした目的で設立されることになっています。市民の皆さんにやりたいことを主体的にやらせてもらおうとした場合、「仲間を集めないと出来ない」といった場面が今後出てくると思います。そのため、仲間づくりや行政からのバックアップを含め、「ラボによって市民を結び付ける場を作っていく」ことが今年度の計画になります。「ラボがどういったものになるのか」は、今後考えていかなければいけないのですが、ぜひ委員の皆さんも関心を持っていただければと思います。「ラボでどんなことをやっているのか」「稲沢市は今どのように動いているのか」について、ラボの現場をたまに見に行ったりして、知っていただきたいと思います。

[委員④]

今委員長から「いなざわ観光まちづくりラボ」の話がありました。本日が立ち上げということで、具体的にどこまで形が出来ているかは分かりませんが、現在どれくらいの方が参加されているのでしょうか。

[事務局]

「いなざわ観光まちづくりラボ」の立ち上げに係る会議を本日午後2時から開催します。現時点でラボの参加メンバーは約40名いますが、それぞれご都合があり、本日は20名程度の方が参加されることになっています。昨年度の観光基本計画アクションプラン検討会議において立ち上がった4つのプロジェクトについて、その実施に向けた検討が現在進められているところです。ご参加いただける方を随時募集しておりますので、新しいアイデアや「〇〇をやりたい」という意欲をお持ちの方が周りにいましたら、ぜひお声掛けいただき、紹介していただければと思います。

[委員長]

「ラボが動くかどうか」がアクションプランを実行していく上で一番鍵となる部分です。何にせよ初めての取組であるため、「どうなるか」は未知数な部分が多いのですが、冒頭で申し上げたように、キックオフシンポジウムでの盛り上がりもありましたし、今回のラボへの参加状況を見ても順調なようなので、「稲沢市民だったら何かやってくれるのではないか」という期待感を私は持っています。勝手に期待するだけはいけませんので、実際にラボを動かしていく、盛り上げていくための仕掛けをこれから試行錯誤しながら一緒に考えていければと思います。

[委員⑤]

「いなざわ観光まちづくりラボ」について、基本的には「市民の自主性を尊重し、やりたいことをやってもらうこと」が前提になると思うのですが、ラボを使って「やりたいことをやる」となった場合に、その事業が果たして「稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）」で定められた大きな戦略の方向性と合致しているのかどうか、若干の不安を覚えます。実際に「〇〇がやりたい」「△△をやります」となったにもかかわらず、「市の方向性と合っていないのではないか」という疑念が生じた場合に、誰が「それは違う」と言うのでしょうか。先ほど他の委員から発言がありましたが、この推進委員会の会議は年に1回しか開催されません。そうすると、会議が開催された時点では事業がかなり進んでしまっており、「今さら『少し方向性が違うのではないか』と言われても困る」といった状況が生じかねません。「個々の活動に対してお墨付きを与える」ということは、すごくお役所的で嫌なのですが、「これを□□□にしたら、ビジョンの方向性に合った形になるのではないか」といったアドバイスを後戻りできなくなる前の段階、事業の形が固まりきらない段階で出来るような仕組みがあっても良いのではないかと個人的には思います。

[委員長]

ラボの事務局は稲沢市観光協会が務めることになっていますが、観光の場合、役所が作った計画に従って市民を動かすことは事実上できませんので、ある程度考え方を示しながら、誘導して

いくことぐらいしかできないと思います。ただし、「稲沢市にＩＲ（カジノを含む統合型リゾート施設）を誘致しよう」「観光のためにはカジノが必要だ」という市民主体の活動が組織され、「場所は善光寺の隣辺りが良いのではないか」といった話が出てきた場合は、委員が懸念されるような状況にならないうちに何とかしなければいけないと思います。この場合、「ラボの活動としてはあまり相応しくないの、自分で好きにやってください」と言うしかないと思います。その点で「ラボの活動とは違います」とまで言い切る権限は無いのかもしれませんが。「ラボとして支援できるか否か」また「ラボの活動として認知するか否か」といったレベルの話にしかならないと思います。

[委員⑤]

私自身が十分に認識できていなくて大変恐縮なのですが、ラボの活動は市からオーソライズされて、市からサポートを受けるものなのでしょうか。

[委員長]

ラボを回していく上で、市がサポートしなければいけない場面はおそらく出てくると思います。例えば「〇月△日に会議を開きたいので会場を貸してください」といった話もその一つです。「お金を出してほしい」という話はさらにハードルが高い話ですので、事務局の基本的な役割はまず「場づくり」になると思います。観光に限らずまちづくりを進めていく上ですごく難しいと思われるパターンには二つあって、一つは「すごく声の大きい人が市役所に乗り込んできて無理やりやらせるパターン」、もう一つが「行政に頼らず自力でやっているが、孤立してしまっているパターン」になります。上手く進んでいない地域はどこもこの二つのパターンに陥っています。そうならないためにも、地域を想う人々がいろいろな繋がりを持ち、持続的な活動を展開していけるよう、市も積極的なサポートに努めていく必要があると思います。市民が自主的にやっていることが市の方針と合わなかった場合、オーソライズはできないものの、「止める」とまではなかなか言いつらいと思います。もし「観光のためにはカジノが必要だ」と言われた場合は、市としてサポートできるかどうかで判断していくしかないと思います。

[委員⑤]

ラボの枠組みかどうかは別として、市民がやりたいことに対して行政があれこれ言う必要はないと思います。ただし、先ほども申し上げたとおり、一定の枠組みがある中で市がオーソライズしていくかどうかは、ある意味大きなポイントになると思います。「市が認めている事業だから」と言われると、その人達がやっていることに対して周りの反応が変わってきます。杞憂かもしれませんが、おかしな方向に走っていく前に何らかの対処をしておく必要があると思います。

[委員長]

そのような事態になった場合は、事務局が判断し、「ラボの事業としてではなく、市民活動としてやってください」と伝えることになると思います。先ほども申し上げたとおり、「場づくり」と「活動の広報」が支援の基本になります。委員のご懸念をしっかりと受け止めて、ラボを今後運営していただきたいと思います。

[委員長]

推進委員会の立ち上げに当たり、今回新たに愛知西農協さんが加わっています。この人選から「農業分野での観光を稲沢市の柱の一つにしていく」という市の意思表示を感じます。何かご意見を伺えれば幸いです。

[委員⑥]

稲沢市との関係で言うと、今年春にオープンした産直広場一色下方店があります。限られた敷地面積の中で、どのように集客率を上げていくか、イベント関係をどのように持ってくるか、様々な検討を進めていますが、その中の一つに体験型農業があります。駐車場の脇に農地が10アールほどありますが、そこを使って何ができるかを考えた結果、体験型農業を今後進めてはどうかという話になりました。水田を埋め立てて畑地化した場所になるのですが、まだ実際に何も作っていない状況です。今年の秋から冬にかけて我々が手始めに耕作してみて、作物がどのような状態で出来るかを確認した上で、体験型農業の実践場所にしていければと考えています。参加募集の方法としては、産直店舗のお客様のほか、一般のお子さんにも声を掛けたいと思っています。また、お子さんが作った農作物を店舗で販売することも一つのアイデアとして検討しています。皆様からいろいろなご意見やアドバイスをいただきながら、農協として地域の中に入っていきける形を築いていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

[委員長]

新しい動きも出てきていますので、皆さん積極的に関わっていただければと思います。

[副委員長]

愛知県には様々な観光地がありますが、稲沢市の観光施設はその一つ一つが非常に色濃くセールスポイントを持っていると感じています。荻須記念美術館があつたり、天下の奇祭「国府宮はだか祭」があつたり、善光寺があつたり、イチョウ黄葉があつたりと、「稲沢市はどういう観光地なのか」という観点で見た場合に、決して悪い意味ではなく、一つ一つの観光施設が色濃いため、集約的なものはありません。例えば、京都には平安時代に端を発する歴史的な寺社仏閣が数多くありますが、金閣寺にしても、清水寺にしても、広く言えば皆同じような範疇に含まれます。しかし、稲沢市の観光施設は一つの範疇に収まるものではないと思います。以上を踏まえて私が感じているのは、ラボの活動を通じて皆で観光まちづくりに一生懸命取り組み、5年くらいの年数をかけて一つ一つ実績を積み重ねていけば、「市民が観光まちづくりに一生懸命取り組むまち」という部分で統一性が出てくるのではないかと、そうなれば勿怪の幸いではないかと思っています。

[委員長]

他に質問等も無いようですので、委員の皆様にお諮りいたします。

「稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）」の進捗状況の確認、成果の検証等の進行管理に当たっては、事務局から説明があつたスケジュールを基本に進めていくこととしてよろしいでしょうか。

<「異議無し」の声>

[委員長]

ご異議も無いようですので、事務局から説明があったスケジュールを基本として、今後進めさせていただきます。

(3) 新委員の選任について

[委員長]

続いて、協議事項(3)その他について、事務局から説明をお願いします。

= [事務局] =

【委員の追加選任について説明】

※要綱第4条第2項第5号に基づく委員(その他市長が必要と認めた者)として、「いなざわ観光まちづくりラボ」から代表者1名を後日選任する。

[委員長]

事務局からの説明が終わりました。ご意見、ご質問はありますでしょうか。

特に無ければ、以上で本日の議事を終了させていただきます。ご協力、そして貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。

6 その他

[事務局]

委員から配布チラシのご紹介がありますので、よろしくをお願いします。

[委員⑦]

「稲沢市観光まちづくりビジョン(第2次稲沢市観光基本計画)」の基本方針2の中に「年間を通じて稲沢市の魅力を体験できる着地型観光メニューが必要」との記載があります。参考になる部分があるかと思い、本日私どもが開発した着地型旅行商品のチラシをお持ちしましたので、ご紹介させていただきます。

【名鉄観光サービス株式会社の着地型旅行商品「みつけたび中部」の紹介】

[事務局]

ありがとうございました。続いて、事務局から次回開催案内をさせていただきます。本日、第1回目の会議を開催いたしました。次回につきましては、ご案内のとおり来年2月に開催したいと考えております。その際には、計画に基づくアクションプランの進捗状況、次年度以降の実施方針等についてご報告させていただき、委員の皆様にご審議を賜りたいと考えております。日時等の詳細につきましては、決まり次第、改めて文書でご案内いたしますのでよろしくお願いいたします。

最後に2点、事務連絡をさせていただきます。始めに、冒頭の市長あいさつにもありました「第10回愛知県観光交流サミット in いなざわの開催」についてです。既にご承知の方もおみえだと思えますが、「市制施行60周年」「稲沢市観光まちづくりビジョンのキックオフ」を記念しまして、本年11月29日(木)に名古屋文理大学文化フォーラム(稲沢市民会館)をメイン会場として「第

10回「愛知県観光交流サミット in いなざわ」を開催いたします。秋の開催であり、愛知デスティネーションキャンペーンの期間中でもあることから、イチョウ黄葉や銀杏など、季節に合った本市の魅力的な資源を紹介するとともに、織田信長公の生誕地とされている勝幡城址にも着目し、「三英傑の歴史がスタートした地」としての本市の知名度アップと魅力の創出に繋がるプログラムを展開する予定です。本市の観光PRプログラムに加え、観光を通じて連携協働することで各地域が持つ資源の価値をさらに高め、愛知県の観光の活性化を目指していきたいと考えています。サミットの成功に向けて、今後皆様のご支援とご協力を賜りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。2点目といたしまして、本日の会議への出席に伴う謝礼につきましては、指定の口座へ振り込ませていただきますのでよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、本日の会議を閉会いたします。長時間慎重審議いただき、誠にありがとうございました。

以上